

巻頭言

「日本分類学会の継承と発展」

日本分類学会会長 宿久 洋

2021年度に本学会の会長職に選出され、不十分ながらもコロナ禍での学会運営を担ってまいりましたが、この度、引き続き2023年度～2024年度の会長職を拝命いたしました。多くの方には繰り返しのようになってしまいかもかもしれませんが、ここでは本学会の活動を確認するとともに、この1年の活動を振り返りながら日本分類学会の今後の展望について述べたいと思います。

(1) 海外組織との研究交流

本学会の大きな特色の1つに国際的なつながりの強さがあります。まずあげられるのはIFCS (International Federation of Classification Societies) です。IFCSは1985年に本学会および米国、英国、独逸、仏国、伊国の分類関係の学会の連合組織として設立されました。設立当初の本学会の代表は林知己夫先生、矢島敬二先生であり、IFCSの会長はH.-H. Bock先生です。この6学会から始まったIFCSですが、現在では18の組織を有するまでに発展してきました。IFCSは1987年から国際会議を開催しており、現在までに17回開催されています。そのうち2回は日本での開催です。17回目の大会は2022年7月にポルトガルのポルトにおいて対面方式で開催されました。コロナ禍における対面開催でしたが、欧州を中心に多くの参加者を集めて盛況のうちに終了しました。18回目の大会は2024年7月にコスタリカのサンホセにて開催の予定です。

この他にも、本学会の先輩会員の尽力により、海外の学会との交流も盛んです。その1つの成果が、Springer社から公刊されているジャーナル“Advances in Data Analysis and Classification”です。このジャーナルは、CLADAG (イタリア分類学会)、GfKI ドイツ分類学会、ならびに本学会によって創刊され、本学会も編集に協力しております。

また、ドイツ、イタリアとはそれぞれ2国間の交流もあり、日独分類シンポジウム、日伊分類シンポジウムが開催されています。前者については、2023年9月末に札幌で開催すべく計画を進めています。後者の方

<目次>

・巻頭言「日本分類学会の継承と発展」	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
セミナー開催告知	4
・学会賞・フェローについて	
日本分類学会 学会賞およびフェローについて	4
日本分類学会 2021年度 学会賞・フェロー	5
日本分類学会 2020年度 フェロー授与選考理由について	5
日本分類学会 2020年度 学会賞受賞者より	6
・学会議事録等	
2022年度総会議事録	8
評議員会議事録	9
幹事会議事録	14
事務局から	17

はイタリア開催から少し時間が経っていますが、できることなら近々の日本開催を企画したいと考えております。

このような国際交流は一朝一夕にしてできるものではなく、先輩諸氏の並々ならないご尽力によって築かれてきたものです。この成果を引き継いでいくことが我々の世代の役目だと思っており、会員各位のご協力をお願いしたいと考えております。

(2) 機関誌の発行

本学会では、和文の論文誌として2012年から和文誌「データ分析の理論と応用」を発刊しております。初代編集委員長岡太彰訓先生、次代編集委員長吉野諒三先生のもと順調に公刊を続けており、2022年度からは大津起夫先生を新編集委員長に迎え、新たな体制で更なる発展を目指しています。

欧文誌については、国際交流でも触れましたが、2007年からドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、Springer社から年3回刊行しています。また、2018年から、統計関連学会連合のOfficial JournalとしてJapanese Journal

of Statistics and Data Science (JJSD) が刊行され、本学会も協力し、編集に参画しています。

(3) 学術的会合など

本学会は、年間に大会1回、シンポジウム1回の研究発表会を開催しています。2022年度は大会を6月に福岡女子大学にて、シンポジウムを10月に稚内市生涯学習総合支援センターにて開催いたしました。コロナ禍でのハイブリッド開催でしたが、多くの方に参加していただきました。今後の開催形態についても、引き続きハイブリッド開催を中心に考えたいと思っております。2023年の大会は京都女子大学にて、シンポジウムは長崎大学にて開催を予定しております。現地でみなさまとお目にかかれることを楽しみにしております。

近年、学生およびその指導教員を中心に会員の増加がみられます。これからも、魅力的な学会行事を行うことにより、会員サービスの向上、会員交流の活発化を図っていきたくと考えております。

以上、大きく3点について所感を述べさせていただきました。今後の日本分類学会の発展にいささかなりとも貢献できればと考えておりますので、会員のみなさまの協力をどうぞよろしくお願いいたします。

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第41回大会開催報告

大会実行委員長 藤野 友和 (福岡女子大学)

日本分類学会第41回大会を2022年6月4日(土)、5日(日)に福岡女子大学(福岡県福岡市)で開催いたしました。8件の一般講演に加え9件の学生発表セッションでの発表が行われ、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。みなさまのおかげで、大変、有益な大会になったと感じています。大会実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション(1)

座長：石岡文生 (岡山大学)

- ・内積モデルと距離モデルの比較に関する実証研究 土方啓一郎 (東京大学大学院教育学研究科)
- ・縮小ランク回帰を用いた Modified Covariate Method について 稗田涼真 (同志社大学), 宿久洋 (同志社大学)
- ・Two-mode cluster elastic net について

大井海渡 (同志社大学文化情報学研究科), 宿久洋 (同志社大学文化情報学部)

学生発表セッション(2)

座長：山田隆行 (島根大学)

- ・勾配ブースティング決定木を用いた確率予測—糖尿病発症確率予測モデルの開発と評価— 瀬戸ひろえ (大阪大学大学院人間科学研究科), 大山飛鳥 (大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター), 木虎秀二 (大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター), 土岐博 (大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター), 山本陵平 (大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター)
- ・群中心行列の零列数を直接制約した変数選択クラスタリング 嶋田直也 (大阪大学)
- ・ネットワーク理論を用いた日本伝統音楽の構造分析 小嶋彩加 (同志社大学), 中洲貴一 (同志社大学), 足立潤治 (同志社大学), 森川葵 (同志社大学), 河瀬彰宏 (同志社大学)

学生発表セッション(3)

座長：大草孝介 (中央大学)

- ・柔道のプレースタイルの分類 山元玲 (東海大学大学院), 川村陸哉 (東海大学大学院), 山本義郎 (東海大学)
- ・画像解析によるハンドボールシュートの分類 川村陸哉 (東海大学大学院), 山本義郎 (東海大学)
- ・Group Lasso の罰則項を用いた Spatially Clustered Coefficient Regression 酒井俊樹 (同志社大学文化情報学研究科), 土田潤 (同志社大学文化情報学部), 宿久洋 (同志社大学文化情報学部)

一般セッション(1)

座長：富田誠 (横浜市立大学)

- ・k近傍法を用いたリチウムイオン電池の微小内部短絡検出 志村 重輔 (株式会社村田製作所), 林 沙織 (株式会社村田製作所), 岡安 悟志 (株式会社 TCK), 板垣 昌幸 (東京理科大学 理工学部 先端化学科), 林 賢一 (慶應義塾大学 理工学部 数理科学科)
- ・国内の COVID-19 陽性者に対する echelon 法に基づいた時空間クラスターの最近の動向について 竹村祐亮 (同志社大学), 石岡文生 (岡山大学), 宿久洋 (同志社大学), 栗原考次 (京都女子大学)

一般セッション(2)

座長：宿久洋（同志社大学）

・異質なアイテム間の共起関係を抽出するための非負値行列因子分解

阿部寛康（京都大学）

・Deep Learning による広告コンテンツのブランド混同の予測

中山厚穂（東京都立大学）

・多次元尺度法による計算効率を考慮した ディープラーニング手法

高村昇二郎（筑波大学理工情報生命学術院），

佐藤美佳（筑波大学システム情報系）

一般セッション(3)

座長：山本義郎（東海大学）

・コンセンサス言語と数字を併用した広告表現の検討

王義淳（横浜国立大学大学院国際社会科学府），

鶴見裕之（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院）

・家計調査データに基づく我が国の食料嗜好の地域性に関する分析

高部勲（立正大学），木村敦（独立行政法人統計センター）

・自記式調査における経時変化量の測定誤差

橋本実咲希（横浜市立大学データサイエンス学部），

土屋隆裕（横浜市立大学データサイエンス学部）

○シンポジウム開催報告

■2022年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 富田 誠（横浜市立大学）

2022年度日本分類学会シンポジウムを2022年10月29日（土），30日（日）に稚内市生涯学習総合支援センター（北海道稚内市）で開催いたしました。6件の一般講演に加え8件の学生発表セッション，1件の特別講演も行われ，活発な研究発表，情報交換ができたと思います。みなさまのおかげで，大変有益な大会になったと感じています。シンポジウム実行委員長として，ご参加いただきましたみなさま，スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション I

座長：山下直人（関西大学）

・独立性指標に基づく非線形構造抽出法を用いた実データ解析について

石本翔真，南 弘征（北海道大学），水田正弘（統計数理研究所）

・項目因子分析の制約付き同時最尤推定における解の回転

土方啓一郎，岡田謙介（東京大学）

・未測定交絡因子が存在する場合における制御された直接効果の識別

岡本憲暁，片山翔太，星野崇宏（慶應義塾大学）

・Bang and Robins 流の拡大された OW 推定量の構成と傾向スコアモデルの頑健性の向上

天本友梨香，折原隼一郎，田栗正隆（横浜市立大学）

学生発表セッション II

座長：足立浩平（大阪大学）

・方向統計学を用いた空間的干渉の存在下における因果解析について

小林拓，宿久洋（同志社大学）

・多変量データに対する時空間ホットスポット検出のための一手法

安達弘修，石岡文生（岡山大学）

・治療開始時点を起点とした周辺構造 Cox モデルにおける IPW 法の改良

瀬谷のどか（横浜市立大学），田栗正隆（東京医科大学）

・生存時間データにおけるアウトカム誤分類を考慮した回帰係数の推定

角田侑平（横浜市立大学），田栗正隆（東京医科大学）

特別講演

座長：宿久洋（同志社大学）

Sufficient Dimension Reduction を用いた確率的介入に基づく因果効果の推定

山本倫生（大阪大学）

一般セッション I

座長：酒折文武（中央大学）

・Cox 比例ハザードモデルにおける新たな操作変数法の提案

折原隼一郎（東京医科大学）

・Generalized Structured Component Analysis におけるパラメータ行列の回転問題

山下直人（関西大学）

・コロナ禍における健康や運動への意識の変化と分類

酒折文武，工藤裕子（中央大学）

一般セッション II

座長：山本倫生（大阪大学）

・確率予測モデルの信頼性評価手法の提案

瀬戸ひろえ, 木虎秀二, 山本倫生 (大阪大学)

・大学入学共通テストの受験番号記入誤り

橋本貴充 (大学入試センター)

・関数データに対する共分散関数の最尤推定について

寺田吉彦 (大阪大学)

○セミナー開催告知

2022年度 第1回データ分析セミナー

日時: 2023年3月25日(土) 午前(10:00-12:30),
午後(13:30-17:00)

会場: オンライン開催 (リアルタイムのみ. オンデマ
ンド配信はありません.)

担当講師: 大草 孝介 (中央大学)

内容:

「Python を用いたデータの可視化」

午前の部「Python による基本的な可視化 (seaborn,
altair を例に)」 (10:00-12:30)

午後の部「Python による高度な可視化 (インタラクテ
ィブな可視化, 地理空間・ネットワーク・動画像デー
タの可視化)」 (13:30-17:00)

参加費 午前の部のみ (10:00-12:30):

日本分類学会 正会員 3,000 円

日本分類学会 学生会員 1,500 円

非会員 6,000 円

学生非会員 3,500 円

参加費 午後の部のみ (13:30-17:00):

日本分類学会 正会員 4,000 円

日本分類学会 学生会員 2,000 円

非会員 8,000 円

学生非会員 5,500 円

参加費 (終日)

日本分類学会 正会員 5,000 円

日本分類学会 学生会員 2,500 円

非会員 10,000 円

学生非会員 6,000 円

※日本分類学会シニア会員・賛助会員の団体に属す方
は正会員価格

・セミナーのテーマ

【午前の部 「Python による基本的な可視化
(seaborn, altair を例に)」】

◆セミナーのねらい:

「Python による基本的な可視化 (seaborn,
altair を例に)」は, Python による基本的な可視化法
について学びたいと考えている人を対象にしたもので
す. Python の可視化ライブラリは matplotlib とその
拡張の seaborn, plotly, bokeh, altair など様々なラ

イブラリがあります. 本セミナーではその中でも sea
born と altair に焦点を当て, 基本的なデータの可視化
の実装について, Python の簡単な使い方と併せて学
んでいきます.

午後の講座ではより特殊なデータとしてインタラク
ティブな可視化, 地理空間・ネットワーク・動画像デ
ータの可視化法について学んでいきますが, そこでは
これらのライブラリを使用していくので, その前段階
として使用法について学習・マスターしていきます.
※午後の部受講のための入門コースですが, 午前のみ
の受講も可能です

【午後の部 「Python による特殊な可視化 (インタラ
クティブな可視化, 地理空間・ネットワーク・動画像
データの可視化)」】

◆セミナーのねらい:

「Python による高度な可視化 (インタラクティブな
可視化, 地理空間・ネットワーク・動画像データの可
視化)」では, 午前の部から発展してより高度な可視
化法について学んでいきます. 具体的にはインタラク
ティブな可視化, 地理空間データとネットワークデー
タ, 動画像データの可視化についてピックアップし紹
介していきます.

インタラクティブな可視化では, 近年データの構造
は複雑化してきており, 解析の糸口を探すために様々
な視点からデータの特徴を確認することがより重要に
なっています. このデータの特徴を掴むために,
動的にグラフを変化させるインタラクティブな可視化
は非常に重要な役割を果たします.

地理空間・ネットワーク・動画像データの可視化で
は, より特殊なケースの可視化法について紹介してい
きます. 地理空間データではコロプレスマップやクリ
ギングによる推定の可視化, ネットワークデータは S
NS などのネットワーク構造の可視化と評価, 動画像
データは映像からの人の動きの抽出と可視化などに
ついて取り扱っていきます.

これらのより高度な可視化法についてマスターする
ことで, データ解析の幅を広げ, そこから様々な考察
を得られるようになることが午後の部の目的になりま
す.

学会賞・フェローについて

○日本分類学会 学会賞およびフェローについて

会長 宿久 洋 (同志社大学)

日本分類学会では, 学会賞として「貢献賞」「論文賞」
「奨励賞」の3つの賞が設けられています. また, 2016
年度より「分類に関する研究の発展, 学会活動, 関連
事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェ

ロー授与制度を設置しています。

2022年度は次の方々が学会賞、フェローの称号を授与されました。

○日本分類学会 2022年度 学会賞・フェロー

2022年度の学会賞受賞者として、貢献賞には今泉忠会員、論文賞には山下直人会員、足立浩平会員、奨励賞には神原あん会員、三田村倭会員が選ばれ、2022年6月4日に開催された2022年度総会で授賞式が行われました。また、同総会において、栗原考次会員にフェローの称号が授与されました。

日本分類学会貢献賞

今泉 忠 会員 (多摩大学)

主な選考理由

今泉 忠氏は、多次元尺度構成法を含む、分類に関する理論並びに応用に関する先端的な研究を長年推進しており、多数の研究業績を有しています。また、本学会における国際的な活動の中心としてご尽力されてきました。最近では、2017年に東海大学高輪キャンパスで開催された第15回国際分類学会(IFCS2017)において大会組織委員長を務められ、21年ぶりに我国で開催されたIFCSを成功裏に完遂させました。

以上のように、同氏の研究活動及び学会における指導、育成等の活動による「分類に関する研究の発展」への貢献は多大であることから、貢献賞を授与しました。

日本分類学会論文賞

山下 直人 会員 (関西大学) , 足立 浩平 会員 (大阪大学)

主な選考理由

山下 直人氏および足立 浩平氏は、クラスター分析における幅広い研究を行われており、日本分類学会関連の学術誌 *Journal of Classification* に下記の論文を發表されました。

Naoto Yamashita and Kohei Adachi (2020). A Modified k-Means Clustering Procedure for Obtaining a Cardinality-Constrained Centroid Matrix, *Journal of Classification* volume 37, 509–525.

本論文は、クラスター分析における代表的な手法である k-means 法におけるクラスターのセントロイド行列に着目し、手法を根本的に改良した優れた研究成果です。

なお、山下氏は 2015 年度に一度論文賞を受賞されていますが、論文賞は論文を対象として授与するとい

う趣旨に基づき 2022 年度の論文賞授賞対象論文としました。

日本分類学会奨励賞

神原 あん 会員 (株式会社トヨタシステムズ(賞選考対象の発表時：岡山大学))

主な選考理由

神原 あん氏は、日本分類学会 2021 年度シンポジウムにおいて「Prospective echelon scan による時空間クラスター検出手法の提案」と題した優れた発表をし、優秀学生発表賞を受賞されました。

本研究では、Kulldorff により提案され、現在も広く研究されている Prospective scan に集積地域の時間的な変化を捉える課題において、echelon 解析の階層構造を導入することを提案されています。これにより、隣接情報を有する時空間データにおいて、「前向き研究」の観点での効果的なクラスター検出を可能にしました。さらに、都道府県ごとの COVID-19 の感染者の変化について、提案手法を適用しています。

本研究は、今後応用面での一層の発展が期待でき、奨励賞を授与しました。

三田村 倭 会員 (大阪大学)

主な選考理由

三田村 倭氏は、日本分類学会第 40 回大会において「個体の分類を伴う正則化行列因子分析」と題した優れた発表をし、優秀学生発表賞を受賞されました。

本研究では、因子分析の枠組みで独自分散の推定と個体の分類を同時に達成する手法を提案しています。これは、共通因子得点と独自因子得点の無相関を保証しながら個体の分類を実現するもので、さらには実データによる考察により、その有効性を評価しています。

現在、大学院生であることから、今後応用面での一層の活躍が期待でき、奨励賞を授与しました。

○日本分類学会 2022 年度 フェロー授与選考理由について

2022 年度のフェロー受賞者として栗原 考次会員 (京都女子大学データサイエンス研究所 所長) にフェローの称号が授与されました

授与理由

栗原考次氏は、空間データ解析を中心として、データ解析一般に関する先駆的な研究を推進されてきた。特に、エシロン解析法に関して、理論構築から実世界へ効果的な適用までご尽力され、多くの研究成果を残されています。また、最近では、位相的データ解析

による時空間情報の構造解析へと研究を進展させています。

本学会では、2017年度から2020年度まで会長を務められたのをはじめ、運営委員、評議員、渉外幹事を歴任するとともに、本学会選出のIFCS Councilを務められるなど、国際的にも優れた活動をされてきました。また、本学会以外の統計関連の学会でも要職を歴任されています。

これまでの学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、フェローの称号を授与しました。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

今泉 忠 (多摩大学経営情報学部)

この度、栄誉ある日本分類学会貢献賞を頂きましたこと、誠に身に余る光栄に存じます。これまでお世話になった先生方ならびに関係の皆様方に深く感謝致します。

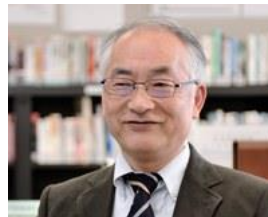
私が本学会の前身であります「分類の理論と応用に関する研究会」を知ることができました機会は、東京工業大学の藤井先生から、この研究会について紹介があったのが最初かと思います。学部生の時から立教大学の岡太先生のもとでデータ解析、特に多次元尺度構成法やクラスター分析などについて学んでおりました、扱ってありましたデータにはマーケティング関係のデータが多く、何らかの課題の解決のために有効と思われるような明確に定義できる「構造」がデータにあるのかという疑問を持っておりましたので喜んで参加させていただいた覚えがございます。参加して驚きましたのは、その当時から国際学会との連携を図っていかうという方向性でございます。研究会報告やシンポジウムの開催、さらに1987年に開催されました日仏科学セミナーなどを通じて研究会や本学会の会員の皆様、海外諸学会での研究者の皆様の研究を知ることで自分の研究を深めることができました。IFCSに関して1996年に日本の神戸で開催されましたIFCS-1996では「データの科学」として、Data Scienceとして開催されました。当時はInternetの普及も十分ではなく、海外とのやり取りはFAXを用いるなどでありました。当時の林会長や大隅幹事長や矢島IFCS委員および幹事の皆様の開催に向けたご努力は大変なもので無事盛大に開催されました。その後、2017年に日本で再度IFCS-2017を開催いたしました。この時には、私が組織員長となり開催させていただきましたが、Internetが利用できるなど諸条件に恵まれており開催できまし

たが、一番の要因は宮本定明副組織委員長や山本義郎実行委員長や酒折文武実行委員会事務局長、竹内光悦会計担当などの多数の実行委員会の皆様のお陰で無事開催することができましたことかと存じます。のお陰で無事開催することができましたことかと存じます。

一方、特に自分の研究に関しては、特にドイツ分類学会(Gesellschaft für Klassifikation (GfKl))の大会に参加させていただき、日本側として日独分類シンポジウムを開催することもできました。このような流れのなかで、感じましたのは、研究での世界の変化の速さでございます。ある年にClassification and Data Analysis Group of the Italian Statistical Society (ClADAG-SIS)に参加させていただきました時にイタリア語での口頭発表が多かったのですが、次回に参加させていただきました時には、英語でのスライド利用で、また、多くの口頭発表は英語での発表となっております。このことから、概要や発表用スライドは英語で作成することなどで、日本の分類に関する研究を世界に広められるのではないかと思います。まだまだ自分でも実現できておりませんが、このようなことから自分でも研究に精進していきたいと考えております。

では、初めの「データの中にどのような『構造』があるのか、また、この用語が適切に定義できるのか、そのようなモデルを考えることができるのか」という40年近くの間に関する答えはまだまだ探索中でございます。一方、これの探せるのも日本分類学会の所属していることの醍醐味であるかなと思っております。

末筆になりますが、本学会の更なる発展と、当該分野の進展、皆様のご研究の進歩を祈りつつ、ご挨拶に代えさせていただきます。存じます。



今泉 忠
(いまいずみ ただし)

1983年4月立教大学社会学部助手、1987年4月青山学院大学理工学部経営工学科助手1989年4月多摩大学経営情報学部助教授
1995年10月多摩大学経営情報学部教授

日本分類学会論文賞を受賞して

山下 直人 (関西大学)

この度は、日本分類学会論文賞という大変栄誉ある賞を授与いただきまして、大変光栄に存じます。この度の受賞は、日本分類学会の諸先生方による日頃のご指導の賜物であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、論文賞の推薦及び選考に関わられた先

生方にも感謝申し上げます。

受賞対象である, Yamashita & Adachi (2019, *Journal of Classification*)は, 私が大阪大学人間科学研究科博士課程在籍中に執筆した論文であり, 当時の指導教官でもあり本論文賞の共同受賞者でもある, 同大・足立浩平教授との共著論文です。論文では, K means クラスタリングにおける解の解釈可能性に焦点を当てています。因子分析では, 因子回転により解行列の事後的な単純構造化が可能なことが広く知られています。一方で, K means クラスタリングでは回転を利用することができず, 従って, 解行列の解釈が困難になる場合があります。そこで本論文では, クラスタの特徴を把握する上でしばしば参照される, セントロイド行列が多数の0を含むように制約つき推定することにより, 回転が利用できない K means クラスタリングにおける解行列の解釈可能性を向上させる方法を開発しました。また, 提案手法の変法として, bi-factor 構造や完全クラスタ構造など, 因子分析でしばしば活用される特殊な構造を有するセントロイド行列を推定する方法を, その適用例とともに提示しました。

略歴の箇所でも述べます通り, 私は一般企業に在籍しながら, 同時に博士課程に在籍して, 博士号を取得しました。従って, 昼は会社員, 夜は大学院生(研究者)として, さらに夫・父親として, 様々な役割の両立に苦心しながら論文を書く日々を送ってまいりました。この度論文賞を賜りました論文は, そのような生活の中で生まれた論文であり, 非常に思い入れの深い論文です。また, 師匠でもあり, 現在では同じ研究者として(非常に僭越ながら)ライバルでもある, 足立浩平先生との共同受賞となっている点も, 今回の受賞をさらに特別なものにしております。

この受賞を励みとして, より良い論文が書けるように, 今後も研究に邁進してゆきたいと考えております。また, 日本分類学会の更なる発展に対して少しでも貢献できるよう, 学会活動や, 後進の育成にも積極的に関わっていかねばと思っております。今後とも, ご指導ご鞭撻のほど, よろしく願いいたします。



山下 直人
(やました なおと)

日本たばこ産業株式会社研究員, ヤフー株式会社リサーチエンジニアを経て, 2022年4月より関西大学社会学部助教博士(人間科学)

日本分類学会奨励賞を受賞して

神原 あん (株式会社トヨタシステムズ)

この度は, 日本分類学会奨励賞に選出頂き誠にありがとうございます。選考に携わった賞委員会の先生方に厚くお礼申し上げます。また, このような賞を頂けたのは, 指導教官である石岡文生先生, 栗原考次先生の手厚いご指導, そしていつも支えてくださった研究室の皆様のお陰です。改めて感謝申し上げます。

今回の受賞対象となった「Prospective echelon scanによる時空間クラスター検出手法の提案」は, 2021年12月に沖縄県石垣市で開催された2021年度シンポジウムにて発表致しました。本発表は, Prospective(前向き)な観点での時空間ホットスポット検出に際し, 共同研究者でもある栗原先生が長年研究されているエシェロン解析法を用いるという試みを提案しています。この提案法により, 既存手法では困難だった任意の形状をしたホットスポットの時間的な推移の様子を, 前向き法の観点から明らかにするとともに, その可視化を行いました。さらに本発表では, この提案法を, 約1年にわたり集計された都道府県別の新型コロナ陽性者数のデータに応用した例を紹介しました。

本発表に向け, 指導教官の石岡先生と, 当時同じ研究室で博士課程に在籍されていた竹村祐亮さんにはとても熱心にご指導頂きました。特に, 発表の3か月前からは, 石岡先生, 竹村さん, 私の3人で週1回3時間かかさず対面でゼミを行って頂きました。初めのうちは思うような結果が出ず, さらに「前向き」「任意形状」「時間的な推移」といった観点からのホットスポットの可視化に関する先行研究がなかったため試行錯誤を繰り返しましたが, 今はやり遂げた達成感を感じています。

私は昨年4月から株式会社トヨタシステムズに就職し, 今はアカデミックの世界から離れ統計学からも少し遠のいていますが, この賞を頂けた事を励みに今後も精進してまいります。



神原 あん
(かんばんら あん)

2022年度岡山大学大学院環境生命科学研究科博士前期課程修了。同年4月株式会社トヨタシステムズ入社。

日本分類学会奨励賞を受賞して

三田村 倭 (大阪大学)

この度は、日本分類学会奨励賞にご選出いただき誠にありがとうございました。このような名誉ある賞をいただき大変嬉しく存ずるとともに、選考に関わってくださった学会関係者の皆様、指導教員の足立浩平先生、日頃からたくさんの刺激を与えてくださった所属研究室の皆様に感謝申し上げます。

今回の受賞に関しまして、日本分類学会第40回大会では「個体の分類を伴う正則化行列因子分析」を発表させていただきました。本研究では、心理学や行動科学の分野で非常によく用いられる因子分析と、自然科学や社会科学など幅広い分野で需要があるクラスタリングを融合した分析手法を提案いたしました。多変量データから潜在変数を抽出し、推定した潜在変数に基づいた個体の分類が可能であるという点が提案手法の特徴です。発表当時は、分析モデルやパラメータ推定に関するアルゴリズムの作成で手一杯であり、提案手法の実用的な効果が発揮されるような実データ分析といった応用的な研究ができていませんでした。しかし、学会発表後は、心理学・行動科学でよく使われる性格特性データや知能テストデータの分析や、分類技術による効果が期待できる画像データへの適用など、より応用的な研究まで発展させることができました。

本研究の発表に至るまで、指導教員の足立先生にはたくさんのご助言をいただき、所属研究室の先輩方の研究も数多く参考にいたしました。また、別の学会にて行なった研究発表でも、他大学の教員の方々や専門家の方々から鋭いご指摘をいただいております。決して一人の力だけでは完成に至らなかった研究となりました。さらに、本大会においても、他の講演者の皆様の素晴らしい発表や学会関係者の方々からの貴重なお言葉によって、自身の研究の新たな課題や今後の展望を発見することができました。誠にありがとうございました。

あいにく、私は博士課程には進学せずこの春より就職となりますが、大学院での研究内容や本大会で得た学びが業務に直結するような、研究職の側面を持つ部署に配属されます。本大会で得た知見や奨励賞をいただいた経験を励みに、大学院修了後も引き続き研究活動に精進いたします。改めて、これまでの研究活動や本大会での発表・選考に関わっていただいた皆様に、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。



三田村 倭
(みたむら やまと)

2021年大阪大学人間科学部人間科学科卒業、同年4月より、同大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程入学。現在、同大学院修士課程在学中

学会議事録等

○2022年度総会議事録

日本分類学会 2022年度総会 議事録

開催日時：2022年6月4日（土）、16:00-17:00

会場：福岡女子大学 C201 講義室 ならびに

Zoomを用いたオンラインによる並行開催

■議長の選出

議長として、大草孝介氏（中央大学）が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第41回大会について

富田幹事長（同大会実行委員）より、2022年6月4日～5日に福岡女子大学（福岡県福岡市）、およびオンラインで並行開催されている第41回大会について報告がなされた。

2. 2022年度シンポジウムについて

富田幹事長（同シンポジウム実行委員長）より、2022年度シンポジウムを2022年10月末に北海道稚内市、およびオンラインによる並行開催で準備を進めている旨、報告がなされた。

3. 2022年度データ分析セミナーについて

富田幹事長より、2022年度データ分析セミナーについて、講師や開催テーマ等に関して報告がなされた。

4. 第8回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より、コロナ禍の影響により延期している同シンポジウムについて、2023年度の開催に向けて準備を進めている旨、報告がなされた。

5. 2022年度統計関連学会連合大会について

宿久会長より、2022年度連合大会の開催時期・開催形式等について報告がなされた。

6. ECDA2022について

栗原 ECDA2022 Program committee より、国際学会 ECDA2022 の開催時期・開催形式等について報告がなされた。

7. IFCS2022について

栗原 IFCS Council より、国際学会 IFCS2022 の開催時期・開催形式等について報告がなされた。

8. 和文誌について

吉野編集委員会委員長より、和文誌第 11 巻第 1 号の編集状況および発行予定時期について報告がなされた。

9. 広報活動について

土田広報幹事より、最近の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）について、報告がなされた。

10. 学会賞について

水田学会賞選考委員会委員長より、2022年度学会賞の受賞者について報告がなされた。

11. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 2021年度事業報告・会計報告について

石岡庶務幹事より、2021年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2021年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

2. 2021年度監査報告について

今泉監事より、5月12日に監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。監査報告を受け、事業報告・会計報告について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

3. 2022年度事業計画および予算案について

石岡庶務幹事より、2022年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。

阿部会計幹事より、2022年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. フェロー候補者について

水田学会賞選考委員会委員長より、学会賞選考委員会で評議した結果、栗原考次氏をフェロー候補者として推薦したい旨の提案がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

5. 和文誌編集委員会委員長の交代について

宿久会長より、本人の意向により吉野諒三氏の和文誌編集委員会委員長の辞任が提案された。

また、吉野現委員長の推薦に基づき、新委員長として大津起夫氏の就任が提案された。

併せて、委員長の交代時期は現在編集中の和文誌第 11 巻第 1 号の発刊後との補足説明がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

6. その他

その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。

【貢献賞】今泉 忠 会員（多摩大学 教授）

【論文賞】山下直人 会員（関西大学 助教）

足立浩平 会員（大阪大学 教授）

【奨励賞】神原あん 会員（株式会社トヨタシステムズ）

三田村 倭 会員（大阪大学大学院 修士課程

2年）

【フェロー称号】栗原考次 会員（京都女子大学データサイエンス研究所 所長）

○評議員会議事録

・日本分類学会 2021-22年度 第5回評議員会 議事録

開催日時：2022年6月3日（金）、16:00-17:20

会場：Zoom によるオンラインでの開催

出席者（敬称略、会長以外は五十音順）：

宿久 洋（会長、同志社大学）、石岡文生（岡山大学）、大津起夫（大学入試センター）、岡太彬訓（立教大学）、小田牧子（防衛医科大学校）、栗原考次（京都女子大学）、佐藤美佳（筑波大学）、清水信夫（統計数理研究所）、

富田 誠(横浜市立大学), 馬場康維(統計数理研究所),
林 文(東洋英和女学院大学), 山本義郎(東海大学),
横山 暁(青山学院大学), 吉野諒三(同志社大学)
今泉 忠(監事, 多摩大学)

委任状提出:

足立浩平(大阪大学), 狩野 裕(大阪大学), 久保田貴
文(多摩大学), 酒折文武(中央大学) 竹内光悦(実践
女子大学), 豊田裕貴(法政大学), 中山厚穂(東京都
立大学), 林 篤裕(名古屋工業大学)

陪席幹事: 阿部寛康(京都大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名(評議員現在数の過半数)に対
し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っ
ていることが確認された。

◆報告事項

1. 第 41 回大会について

富田幹事長(同大会実行委員)より, 2022 年 6 月 4 日
~5 日に福岡女子大学(福岡県福岡市), およびオンラ
インで並行開催される第 41 回大会の準備状況につ
いて報告がなされた。

2. 2022 年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より, 2022
年度シンポジウムを 2022 年 10 月末に北海道稚内市,
およびオンラインによる並行開催で準備を進めている
旨, 報告がなされた。

3. 2022 年度データ分析セミナーについて

富田幹事長より, 2022 年度データ分析セミナーにつ
いて, 実施に向けて準備を進めている旨, 報告がなされ
た。

4. 第 5, 6, 7 回日独分類シンポジウムおよび Post- Proceedings 出版について

今泉 第 6 回日独分類シンポジウム実行委員長より,
発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings
について, 投稿論文数, 仮 book 名, 構成について説明
がなされた。また, 出版に際しページ数の条件を整え
る必要があり, 現在その作業を進めている旨, 報告が
なされた。

5. 第 8 回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より, コロナ禍の影響により延期している同
シンポジウムについて, 2023 年度の開催に向けて準備
を進めている旨, 報告がなされた。

6. 2022 年度統計関連学会連合大会について
宿久会長より, 2022 年度連合大会は 2022 年 9 月 4 日
-8 日に成蹊大学(オンサイト)とオンラインの
ハイブリッド形式で開催される旨, 報告がなされた。
また, 2023 年度大会は京都大学で開催予定である旨,
報告がなされた。

7. ECDA2022 について

栗原評議員(同大会 Program committee)より, 2022
年 9 月 14 日-16 日にイタリア・ナポリで開催される
ECDA2022 について, 開催形式はハイブリッド, 日本
分類学会として 1 つのセッションを企画する,
Behaviormetrika で特集が組まれるといった旨, 報告
がなされた。

8. IFCS2022 について

栗原評議員(IFCS Council)より, 2022 年 7 月 19 日-
23 日にポルトガル・ポルトで開催される IFCS2022 に
ついて, 講演数, 関連する special issue 等について,
報告がなされた。

9. 和文誌について

吉野編集委員会委員長より, 和文誌第 11 巻第 1 号の
編集状況および発行予定時期について報告がなされた。

10. 広報活動について

土田広報幹事の代理で, 石岡庶務幹事より, 最近の広
報活動(会報の発行, 速報性のある情報のメールニュー
ース配信等)について, 報告がなされた。

11. 賛助会員への JJSD 冊子郵送について

宿久会長より, 統計関連学会連合として賛助会員への
JJSD 冊子体の郵送を止める方向で動いているとの
説明があり, 分類学会としても賛助会員に対する
JJSD 冊子体の郵送を止め, トークンを多めに提供す
る事とした旨, 報告がなされた。

関連して, 会員への JJSD のトークンの受け渡し方法
について, 現在の紙媒体郵送というやり方について
見直しを検討する旨, 報告がなされた。

12. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より, 前回の評議員会以降の入退会希望
者について, 資料に基づき説明があり, 審議の結果,

学生会員 6 名の入会, およびシニア会員 1 名, 正会員 4 名, 学生会員 6 名の退会について, 原案の通り承認された。

宿久会長より, 住所・連絡先不明かつ会費が 5 年以上未納の 10 名について, 今後はシンフォニカに会員管理を委託する事等の理由から, これら 10 名については退会としたい旨, 提案がなされた。

審議の結果, 1 名については, 本会に対し多大な貢献がある事からこのタイミングでの退会は見送る事とした。残りの 9 名については退会が承認された。併せて, 本会に対する貢献が特に顕著な会員が会員を継続できるような制度を検討する旨, 提案がなされた。

2. 2021 年度事業報告について

石岡庶務幹事より, 2021 年度事業報告について, 資料に基づき説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

3. 2021 年度会計報告について

小田会計幹事より, 2021 年度会計報告について, 資料に基づき説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

4. 2021 年度監査報告について

今泉監事より, 5 月 12 日に監査を行い, 決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果, 決算報告書が学会の状況を正しく反映し, 学会の運営が適切に行われていることが認められた旨, 報告がなされた。

5. IFCS-2017 Financial report の提出について

今泉 IFCS-2017 組織委員会委員長より, IFCS2017 の最終的な収支について資料に基づき説明がなされた。

また, 収支内容について国内外の LOC 全員からの確認・了承を得ており, 5 月 25 日に監査が終了した旨, 報告がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認された。

6. 2022 年度事業計画案について

石岡庶務幹事より, 2022 年度事業計画案について, 資料に基づき説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

7. 2022 年度予算案について

阿部会計幹事より, 2022 年度予算案について, 資料に基づき説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認され, 評議員会に上程することとなった。

8. 2023 年度の大会, シンポジウムについて

富田幹事長より, 2023 年度の大会は, 2023 年 6 月頃に京都女子大学で開催予定である旨, 説明がなされた。

2023 年度のシンポジウムについては現段階では未定であるが, 開催する方向で準備を行う旨, 説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認された。

9. 学会賞について

水田学会賞選考委員会委員長の代理で, 石岡庶務幹事より, 2022 年度学会賞について下記の選考結果が報告された。

【貢献賞】今泉 忠 会員 (多摩大学 教授)

【論文賞】山下直人 会員 (関西大学 助教)

足立浩平 会員 (大阪大学 教授)

【奨励賞】神原あん 会員 (株式会社トヨタシステムズ)

三田村 倭 会員 (大阪大学大学院 修士課程 2 年)

審議の結果, 原案の通り承認された。

10. フェロー候補者について

水田学会賞選考委員会委員長の代理で, 石岡庶務幹事より, 2022 年度フェロー称号について,

栗原考次 会員 (京都女子大学データサイエンス研究所 所長)

が選考された旨, 説明がなされた。

審議の結果, 原案の通り承認され, 総会に上程することとなった。

11. 2022 年度総会の次第について

石岡庶務幹事より, 日本分類学会 2022 総会の議事について提案がなされ, 審議の結果, 承認された。

12. 編集委員会委員長に推薦について

吉野編集委員会委員長より, 和文誌第 11 巻第 1 号の編集・発行をもって委員長を辞任したい旨, および新委員長として大津起夫氏を推薦したい旨, 提案がなされた。

審議の結果、承認され、総会に上程することとなった。

13. その他

その他の審議事項なし。

日時：2021年2月15日（月）～2月22日（月）（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき承認された。

1. 会長候補の選出について

2021-2022年度日本分類学会会長候補として、
宿久 洋 氏（同志社大学）
を選出した。

2. 入退会について

7名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。2名の正会員と2名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。

（評議員20名のうち回答者数18名。回答者数18名のうち、審議事項1の賛成者数16名、審議事項2の賛成者数18名）

・日本分類学会 2021-22年度 第6回評議員会（ネット）議事録

日時：2022年8月10日（水）～8月22日（月）（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき承認された。

1. 編集委員会委員の選出について

21名（非会員3名含む）の編集委員就任について、原案の通り承認された。

2. 入会について

1名の正会員、1名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

（評議員21名のうち回答者数19名。回答者数19名のうち、

審議事項1の賛成者数18名（ただし評議員本人が委員候補である分は除く）、棄権1名。

審議事項2の賛成者数19名。）

（評議員20名のうち回答者数18名。回答者数18名のうち、賛成者数18名）

・日本分類学会 2021-22年度 第7回評議員会（ネット）議事録

日時：2022年10月17日（月）～10月24日（月）（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき承認された。

1. 入退会について

1名の正会員と4名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

1名の正会員の退会について、原案の通り承認された。

（評議員21名のうち回答者数21名。回答者数21名のうち、賛成者数21名）

・日本分類学会 2021-22年度 第8回評議員会（ネット）議事録

日時：2022年11月7日（月）～11月14日（月）（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条および役員選出内規第9条に基づき承認された。

1. 入会について

1名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

2. 選挙管理委員の選出について

次の2名の選挙管理委員の就任について、原案の通り承認された。

・阿部貴行 氏（横浜市立大学）

・今田一希 氏（横浜市立大学）

（評議員21名のうち回答者数21名。回答者数21名のうち、賛成者数21名）

審議の結果、原案の通り承認された。

5. 第40回大会について

栗原会長より、第40回大会を林邦好実行委員長（聖路加国際大学）の下、6月～7月の開催に向けて調整中である旨の説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

6. 2021年度シンポジウムについて

富田幹事長より、第40回大会以降、2021年度内の開催に向けて調整する旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

7. 第8回日独分類シンポジウムについて

水田渉外（国際学会活動）幹事（同シンポジウム担当）より、コロナ禍の影響により延期している同シンポジウムについて、会場の目途は立っているが、具体的な日程等を示すのはまだ難しい状況である旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

8. その他

その他の審議事項なし。

◆日本分類学会 2021-22年度 第9回評議員会 議事録

開催日時：2023年1月19日（木）、10:00-10:45

会場：Zoom によるオンラインでの開催

出席者（敬称略、会長以外は五十音順）：

宿久洋（会長、同志社大学）、石岡文生（岡山大学）、岡太彬訓（立教大学）、小田牧子（防衛医科大学校）、栗原考次（京都女子大学）、清水信夫（統計数理研究所）、富田誠（横浜市立大学）、豊田裕貴（法政大学）、馬場康維（統計数理研究所）、林篤裕（名古屋工業大学）、山本義郎（東海大学）、横山暁（青山学院大学）、吉野諒三（同志社大学）

今泉忠（監事、多摩大学）

委任状提出：

足立浩平（大阪大学）、大津起夫（大学入試センター）、狩野裕（大阪大学）、久保田貴文（多摩大学）、佐藤美佳（筑波大学）、竹内光悦（実践女子大学）、林文（東洋英和女学院大学）

◆定足数の確認

評議員会定足数11名（評議員現在数の過半数）に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆審議事項

1. 会長候補の選出について

次期会長候補として、宿久洋氏が推薦された。

宿久会長に一旦退席いただき、栗原考次氏が議長に選出された。

次期会長について議論がなされ、宿久洋氏を会長候補とすることが承認された。

また、学会運営に関し種々の議論がなされ、各種規定に基づいた上で従来の運営方法を踏襲すること、ならびに運営方法を見直す場合には幹事会で改定案等を作成し、適切な手順を踏むことを確認した。

2. 入退会について

石岡庶務幹事より、前回の評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、正会員2名の入会、および正会員1名の退会について、原案の通り承認された。

3. その他

その他の審議事項なし。

◆報告事項

1. 2023年度統計関連学会連合大会 本会選出委員について

宿久会長より、2023年度連合大会における本学会選出委員について報告された。

・プログラム委員：高岸茉莉子氏（岡山大学）

・運営委員：山下直人氏（関西大学）

3. その他

宿久会長より、統計関連学会連合の欧文誌(JJSD)の編集委員が新体制になることに伴い、本会から Coordinating Editor(CE)を1名、ssociate Editor(AE)を8名を選出した旨、報告された。

・CE：佐藤美佳氏（筑波大学）

・AE：飯塚誠也氏（岡山大学）、蔵川圭氏（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）、

富田誠氏（横浜市立大学）、豊田裕貴氏（法政大学）、中村永友氏（札幌学院大学）、中山厚穂氏（東京都立大学）、山本義郎氏（東海大学）、横山暁氏（青山学院大学）

宿久会長より、役員改選に関し、資料に基づき会長候補者1名、監事候補者2名、評議員候補者39名が選出された旨、報告された。

○幹事会議事録

・日本分類学会 2021-22 年度 第2回幹事会 議事録

開催日時：2022年6月3日（金），15:00-16:00

会 場：Zoom によるオンラインでの開催

出席者（敬称略，会長・幹事長・監事以外は五十音順）：
宿久 洋（会長，同志社大学），富田 誠（幹事長，横浜市立大学），今泉 忠（監事，多摩大学），阿部寛康（京都大学），石岡文生（岡山大学），大津起夫（大学入試センター），小田牧子（防衛医科大学校），栗原考次（京都女子大学），佐藤美佳（筑波大学），林 邦好（京都女子大学），山本義郎（東海大学），吉野諒三（同志社大学）

◆報告事項

1. 第41回大会について

富田幹事長（同大会実行委員）より，2022年6月4日～5日に福岡女子大学（福岡県福岡市），およびオンラインで並行開催される第41回大会の準備状況について報告がなされた。

2. 2022年度シンポジウムについて

富田幹事長（同シンポジウム実行委員長）より，2022年度シンポジウムを2022年10月末に北海道稚内市，およびオンラインによる並行開催で準備を進めている旨，報告がなされた。

3. 2022年度データ分析セミナーについて

富田幹事長より，2022年度データ分析セミナーについて，実施に向けて準備を進めている旨，報告がなされた。

4. 和文誌について

吉野編集委員会委員長より，和文誌第11巻第1号の編集状況および発行予定時期について報告がなされた。

また，吉野編集委員会委員長より，和文誌第11巻第1号の編集・発行をもって委員長を辞任したい旨，および新委員長として大津起夫氏を推薦したい旨を評議員会に提案したいとの報告がなされた。

5. 広報活動について

土田広報幹事の代理で，石岡庶務幹事より，最近の広報活動（会報の発行，速報性のある情報のメールニュース配信等）について，報告がなされた。

6. 会員の種別変更について

石岡庶務幹事より，会員の種別変更について，資料に基づき報告された。

7. その他

宿久会長より，近い将来，紙媒体の刊行を止め電子版のみの刊行へ移行するための検討依頼があり，この件は次期の編集委員会へ引き継いで具体的な検討を進めてもらう事とした。

◆審議事項

1. 2021年度事業報告について

石岡庶務幹事より，2021年度事業報告について，資料に基づき説明がなされた。

審議の結果，原案の通り承認され，評議員会に上程することとなった。

2. 2021年度会計報告について

小田会計幹事より，2021年度会計報告について，資料に基づき説明がなされた。

審議の結果，原案の通り承認され，評議員会に上程することとなった。

3. 2021年度監査報告について

今泉監事より，5月12日に監査を行い，決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果，決算報告書が学会の状況を正しく反映し，学会の運営が適切に行われていることが認められた旨，報告がなされた。

4. 2022年度事業計画案について

石岡庶務幹事より，2022年度事業計画案について，資料に基づき説明がなされた。

審議の結果，原案の通り承認され，評議員会に上程することとなった。

5. 2022年度予算案について

阿部会計幹事より，2022年度予算案について，資料に基づき説明がなされた。

審議の結果，原案の通り承認され，評議員会に上程することとなった。

6. その他

その他の審議事項なし。

2022 年度予算(案)
2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減 (22-21)	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	20,000	20,000	0	2,000 円×10 人として算出
2 会費収入	907,000	857,000	50,000	
正会員	640,000	600,000	40,000	5,000 円×(170人×0.75=128人)として算出
シニア会員	15,000	15,000	0	3,000 円×(6人×0.75=5 人)として算出
学生会員	42,000	42,000	0	2,000 円×(28人×0.75=21 人)として算出
賛助会員	150,000	100,000	50,000	50,000 円×3 口として算出
前年度以前分	50,000	80,000	△ 30,000	2021年度実績は130,000円
前受金	10,000	20,000	△ 10,000	
3 論文誌関係収入	290,000	290,000	0	
論文集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
広告収入	160,000	160,000	0	0 論文誌 Vol.11 の広告収入、実績より算出
別刷代金	30,000	30,000	0	0 別刷り(Vol.11)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	0 TeX化料金、カラー印刷代金(Vol.11)立替分
4 雑収入	460,000	460,000	0	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	460,000	460,000	0	0 データ分析セミナー、法政IM共催セミナー
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	0 選挙費積立より繰入
A 当期収入合計	1,702,000	1,652,000	50,000	
B 前期繰越収支差額	3,575,522	3,312,244	263,278	
C 収入合計(A+B)	5,277,522	4,964,244	313,278	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	670,000	0	
和文誌	500,000	500,000	0	0 Vol.11.送料を含む。
別刷代金	30,000	30,000	0	0 Vol.11
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	0 Vol.11
J-Stage登録作業費	40,000	40,000	0	0 Vol.11. 1論文あたり5000円(税抜)
その他	0	0	0	
2 事業費	505,000	435,000	70,000	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	0 大会とシンポジウムの補助
セミナー運営補助費	250,000	250,000	0	0 講師謝礼、交通費、資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	0 学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	40,000	40,000	0	0 表彰状・フェロー認定経費、大会参加費、優秀学生発表賞費
名簿作成	0	0	0	0 今年度実施計画なし
選挙経費	70,000	0	70,000	
新入会員特典	40,000	40,000	0	0 学生会員10人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	16,000	32,000	△ 16,000	
幹事会・評議員会・総会等運営費	15,000	30,000	△ 15,000	0 実績より算出
その他	1,000	2,000	△ 1,000	0 実績より算出
4 事務費	268,940	318,940	△ 50,000	
業務委託費	150,440	150,440	0	0 統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	50,000	100,000	△ 50,000	0 実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	0 ドメイン維持費、実績より算出
会報印刷費	50,000	50,000	0	0 会報 No.41
印刷費	5,000	5,000	0	0 開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	70,000	70,000	0	
会報等送料	25,000	25,000	0	0 会報 No.41
会費請求等連絡通信費	30,000	30,000	0	0 会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	15,000	0	0 大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	20,220	70,220	△ 50,000	
IFCS	0	50,000	△ 50,000	0 昨年度支払い済み
統計関連学会連合	20,220	20,220	0	0 2022年度分、振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	0 原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	0 名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	0	25,000	△ 25,000	0 選挙のための積立
IFCS負担金のための積立	25,000	0	25,000	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	0 日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,601,160	1,647,160	△ 46,000	
E 当期収支差額(A-D)	100,840	4,840	96,000	
F 次期繰越収支差額(C-E)	3,676,362	3,317,084	359,278	
G 支出合計(D+F)	5,277,522	4,964,244	313,278	

事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)

およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>)のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございます。本紙面を借りて、お礼申し上げます。2022年も様々な学会・研究会がオンラインやハイブリッドでの開催になりました。本学会では大会とシンポジウムの両方とも対面とオンラインのハイブリッドの形で開催となりました。昨年度に比べ、対面での参加が増え、研究の議論や研修者間の交流も活発になってきたように存じます。会報に関して、掲載記事の関係もあり発行間隔があいてしまいました。ここにお詫び申し上げます。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュース等でも情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事 土田潤 (同志社大学)

広報委員 阿部寛康 (京都大学)、谷岡健資 (同志社大学)、横山暁 (青山学院大学)、山田実俊 (東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>